NEWS RELEASE

2026年11月25日

高校生・大学生による学校の生理環境改善コンテスト 受賞校決定

奈良学園登美ヶ丘高等学校が「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」最高金賞・グランプリを受賞

株式会社G-Place（本社：京都府長岡京市、代表取締役社長：綾部英寿、以下「当社」）が日本らしいフェムテックの創出を目指して運営する「Femtech Japan（フェムテックジャパン）」は、生理を取り巻く環境に関するスピーチや掲示物のコンテスト「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」を、本年11月8日（日）に東京都渋谷区で開催いたしました。第一部は、生理を取り巻く環境に関するスピーチや掲示物のコンテスト、第二部は4社・団体によるエキシビジョンプレゼンテーション（短時間での事例発表）を実施しました。

コンテストの参加者は、Femtech Japanが行っている「『誰もが快適な生理を』プロジェクト」を活用してトイレに快適な使用感のノンポリマー生理用ナプキンを設置した、もしくは設置を進めている学校・大学で、4つの高校と1つの大学サークルからスピーチと掲示物の両カテゴリー合わせて計7件のエントリーがありました。最高金賞・グランプリは、企業との産学連携で月経中における座位時の負担を軽減する専用クッションを開発する取り組みを行っている、奈良学園登美ヶ丘高等学校に贈られました。



「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」閉会式の様子

受賞者 および 各取組内容の概要

【最高金賞・グランプリ および 掲示物部門銀賞】奈良学園登美ヶ丘高等学校
月経中における座位時の負担を軽減する専用クッションを開発する取り組み

【銀賞 および 掲示物部門金賞】埼玉県立浦和第一女子高等学校
生徒保健委員会による、快適な月経期間の実現に向けた全校生徒への情報発信と改革プロジェクト

【銅賞】長野県屋代高等学校
生理用品の無料設置に対する反論に、データと事実をもとに社会的意義を発信した取り組み

【特別賞】津田塾大学 生理用品設置サークル「Sani+（読み：サニプラス）」
経費都合の生理用品撤去を機に発足し、トイレットペーパーと同等の必需品化を目指す活動

【掲示物部門銀賞】筑波大学附属坂戸高等学校 自主活動団体「生理用品×学校」
「生理用品×学校」の取り組み内容や定量および定性データを端的にまとめたポスター

「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」概要

名　　称	～誰もが快適な生理を～サミット 2026
開催日時	2026年11月8日(日) 13:30～15:30
開催場所	東京ウィメンズプラザホール (〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67)
参加者一覧 (五十音順)	埼玉県立浦和第一女子高等学校 筑波大学附属坂戸高等学校 自主活動団体「生理用品×学校」 津田塾大学 生理用品設置サークル「Sani+(読み:サニプラス)」 長野県屋代高等学校 奈良学園登美ヶ丘高等学校
受賞者	**～誰もが快適な生理を～サミット 2026** 最高金賞・グランプリ：奈良学園登美ヶ丘高等学校 銀賞：埼玉県立浦和第一女子高等学校 銅賞：長野県屋代高等学校 特別賞：津田塾大学「Sani+」 **～誰もが快適な生理を～サミット 2026　掲示物(ポスター/POP)部門** 金賞：埼玉県立浦和第一女子高等学校 銀賞①：筑波大学附属坂戸高等学校「生理用品×学校」 銀賞②：奈良学園登美ヶ丘高等学校
プログラム	**第一部** スピーチコンテスト **第二部 エキシビジョンプレゼンテーション:** ・助産師 もも: 「助産師って、どんな仕事？」 ・一般社団法人 生理の保健室協会: 「全ての子どもたちに月経教育を！生理が変われば、未来が輝く」 ・Musubi(読み:ムスビ)合同会社: 「地球と女性をつなぐ循環型 小さな一枚から、未来を変える」 ・トビタテ！留学JAPAN: 「生理を共通言語に。隠れ我慢のない社会へ。」 **第三部** 授賞式
主　　催	Femtech Japan Femcare Japan 実行委員会

受賞者コメント

奈良学園登美ヶ丘高等学校 代表者

「この度、登壇部門で最高金賞・グランプリ、掲示物部門で銀賞をいただき、大変嬉しく思います。夏の関西大会では試作品が2個のみでしたが、今回の東京大会に向けて企業の方々と何度もミーティングを重ね、より快適に過ごせるクッションの製作を進めてきました。今後も多くの方が月経期間を少しでも快適に過ごせるよう、企業の方々と協力して開発を続けていきます。」



「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」
奈良学園登美ヶ丘高等学校のスピーチコンテストの様子

埼玉県立浦和第一女子高等学校 代表者
「この度は、貴重な発表の機会と素敵な賞をいただき、心より感謝申し上げます。学校の保健委員会活動の一環として行っている取り組みを評価していただけたことを、大変嬉しく思います。また、他校の皆さんの発表を聞き、自分たちにはない視点から月経と向き合っている姿に大きな刺激を受けました。今回の経験を今後に活かし、生徒たちがより快適に月経期間を過ごせるよう、これからも精進してまいります。」

長野県屋代高等学校 代表者
「今回のサミットでは、生理に関する活動に取り組む方々と交流し、生理用品の設置について同じ悩みを抱えていることを知ることができました。また、新たな視点から『誰もが快適な生理』について考え、大きな刺激を受けました。今後も実践と検証を重ね、誰もが快適に生理を過ごせる社会を目指します。」

津田塾大学 生理用品設置サークル「Sani+」 代表者
「この度は特別賞をいただき、大変嬉しく思っております。同じ志を持つ同年代の方たちのスピーチを聞くことができ、とても勇気をもらいました。周りにも頑張っている仲間がたくさんいることが分かったので、私たちも目標に向かって精一杯進んでいこうと思います。貴重な機会をありがとうございました。」

筑波大学附属坂戸高等学校 自主活動団体「生理用品×学校」 代表者
「この度は、発表する機会をいただき、さらに受賞できたことを大変嬉しく思っております。今後は、生理痛に関する知識を広めるワークショップを計画しています。年齢や性別に関係なく、生理がタブー視されない社会の実現に向けて尽力していきたいです。またご縁がありましたらよろしくお願いいたします。」

「誰もが快適な生理を」プロジェクト｜概要と実績

「誰もが快適な生理を」プロジェクトでは、学校、企業、団体等がトイレに生理用ナプキンを設置し生徒や従業員等が無料で利用できる環境の整備を支援しています。これは、1カ月のトライアル期間のナプキンを無償提供し、本運用に際して継続利用の希望があった場合には特別価格で提供するというもので、Femtech Japanが2022年1月から行っています。現在までに、全国で50件以上の支援実績があります。

またFemtech Japanは、「誰もが快適な生理を」プロジェクトを通じて「生理の貧困」という社会課題解決に貢献するとともに、生理の期間を快適に過ごせる方を増やしたいと考えています。そのため、本プロジェクトでは一貫して、生理用品の中でも特に使用感が良いという評価が高い、ノンポリマー（高分子吸収材不使用）のナプキンを提供しています。

2023年4月からは大学との産学連携研究を行っており、京都ノートルダム女子大学（京都府京都市左京区、学長：酒井久美子）の現代人間学部心理学科、神戸女子大学（兵庫県神戸市、学長：洪愛子）の心理学部心理学科、および梅花女子大学（大阪府茨木市、学長：河村圭子）の心理学部と、生理を取り巻く社会課題の解決と知識の共創に取り組んでいます。（2026年10月末現在）

また、2024年11月に「誰もが快適な生理を」プロジェクトを活用してトイレにノンポリマー生理用ナプキンを設置した、もしくは設置を進めている学校・大学および企業・団体が参加するスピーチと掲示物のコンテストを東京で開催しました。以降、2025年8月の京都、11月の東京、2026年8月の京都（スピーチコンテストでは無くプレゼンテーションがメインのイベント）を実施しています。

▶「誰もが快適な生理を」プロジェクト： https://femtech-japan.com/kaiteki/

2022年1月　：「誰もが快適な生理を」プロジェクトを開始
2023年4月　：大学との産学連携研究を開始
2024年11月：生理の環境改善に取り組む学生らのスピーチコンテストを開始（以降、継続開催）



「誰もが快適な生理を」プロジェクトによりトイレに設置された
生理用ナプキン（京都ノートルダム女子大学での事例）

誰もが
快適な生理を

「誰もが快適な生理を」プロジェクト ロゴ

関連リリース

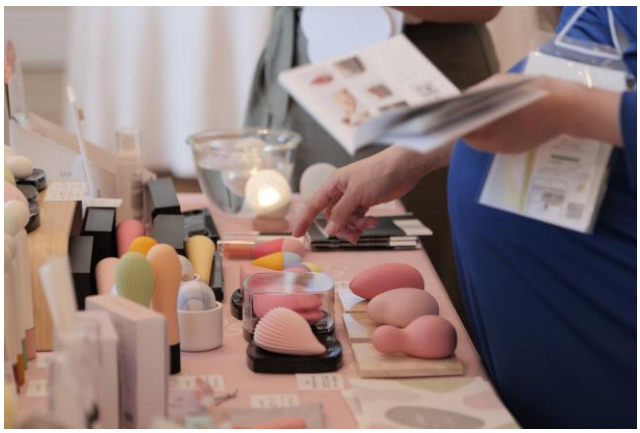
2026年10月8日リリース
生理の環境改善の優秀事例を表彰する「～誰もが快適な生理を～サミット 2026」を11/8(日)に東京で開催
東京ウィメンズプラザにて、学校や企業におけるノンポリマーナプキン設置事例のコンテスト＆表彰式を開催
https://g-place.co.jp/news/n-775/

2026年9月2日リリース
学校および避難所の生理の環境改善に向けて高校生・大学生・企業が「共同声明」を発表
生理の環境改善を多角的に探る「～誰もが快適な生理を～サミット 2026 in KANSAI」が8月4日(火)に閉幕
https://g-place.co.jp/news/n-743/

Femtech Japanについて｜活動の目的と取り組み

女性特有の健康課題をテクノロジーで解決するという考え方が「フェムテック」(female + technology)です。Femtech Japanは、日本に日本らしいフェムテックを広めるため、株式会社G-Placeが2021年1月に立ち上げた取り組みです。現在はイベント・セミナー開催、マーケットリサーチ、フェムテック・フェムケア系ブランド・サービスの販促サポート、施設内トイレへの生理用品設置サポート(「誰もが快適な生理を」プロジェクト)等の活動を行っています。





主催イベント「Femtech Japan Femcare Japan」

株式会社G-Placeについて｜企業の歩みと事業領域

1968年に「日本グリーンパックス」として事業をスタート。2019年5月、創業50周年を機に現社名に変更しました。「アイディアで未来をつくる、創造総合商社」を掲げ、さまざまな分野で独自性のある商品やサービスを提供しています。創業から一貫して、全国自治体のごみ減量を支援する事業を柱にしており、現在では、高所安全対策製品や再生樹脂製品の販売、天然由来成分にこだわったオリジナルの化粧品や雑貨類の企画・販売、海外家電製品の輸入販売なども行っています。海外にも拠点を設け、積極的に事業を展開中です。

2020年からは当社の株の100%を一般財団法人辻・山中財団が保有する体制に移行しており、当社の得た収益の一部は配当金として財団に支払われたのち、社会に対し意義のある事業に寄付される仕組みになっています。※辻は「一点しんにょう」が正式表記

株式会社G-Place 公式サイト https://g-place.co.jp
一般財団法人辻・山中財団 公式サイト https://www.tsuji-yamanaka-zaidan.jp

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社G-Place
経営企画部門　広報・事業支援グループ
上山
Email：kamiyama@g-place.co.jp

【会社概要】
商号：株式会社G-Place（読み：ジープレイス）
所在地：〒617-0835
京都府長岡京市城の里10-9
創業／設立：1968年5月7日／1969年5月16日
代表取締役社長：綾部英寿
公式HP：https://g-place.co.jp

掲載されている情報は発表時点のものです。発表後に内容が変更になる場合がございますので、何卒ご了承ください。